

京都 京北 未来かがやきビジョン

～人と自然，文化が輝く，

京北版 **創** **造** **農** **村** を目指します！～



平成27年8月



ごあいさつ



京都市長

門川 大作

豊かな森林や清流などの美しい自然環境に恵まれ、その中に素晴らしい文化や伝統、そして何よりも温かな人の絆が息づいている京北地域。私も折に触れて伺う度に、大いに元気をいただいています。

本年で合併からちょうど10年の節目ですが、この間に京北トンネル開通、水道施設の整備、農林業の振興など、地域の皆様の御支援、御協力により多くの取組が前進しました。最近では、全国から何人もの方が京北地域に転入され、農業や観光などのお仕事に従事。また、所有者の方と地域団体との連携による空き家対策の取組も始まるなど、より良い地域づくりへの機運が着実に高まっていると実感しています。

この流れを確かなものとするため、多くの方々の知恵と力を結集して練り上げたのが、この「京都 京北未来かがやきビジョン」です。

本ビジョンでは、若者や子育て世代を中心とした定住促進、新たな雇用創出などに照準を合わせた各種施策を掲げています。折しも、「地方創生」として「まち」「ひと」「しごと」の創生に向けた取組が各地で始まっている中、これに「こころ」の創生を加えた京都ならではの「地方創生」を進めるうえで、京北での取組は全国のモデルケースになる可能性を秘めています。今後、スピード感を持って可能なものから事業に着手してまいります。京北にお住まいの皆様、そして京北を愛する皆様、これからも共に、地域を一層盛り上げてまいりましょう！

結びに、本ビジョンの作成に当たり多大なお力添えをいただきました「京北未来創造研究会」の委員の皆様をはじめ、貴重な御意見・御提言をお寄せくださいました全ての皆様に心から御礼を申し上げます。

平成27年8月

京都 京北未来かがやきビジョン

1 京北の姿

p.1

- (1) 概要
- (2) 特徴と課題

2 京都 京北未来かがやきビジョンとは

p.5

- (1) はじめに
- (2) ビジョンの位置付け
- (3) 策定の経過

3 京北の未来像（わたしたちが目指す10年後の京北）

p.8

- (1) 快適で文化的な田舎暮らしを実現！～まちの創造～
- (2) 次代を担う若者を常に輩出！～ひとの創造～
- (3) 地域循環型の産業と雇用を創出！～しごとの創造～
- (4) 住民と来訪者に癒しと憩いを提供！～こころの創造～

4 京北の未来像を実現するための3つの視点

p.9

- (1) 雇用（しごと）
- (2) 住まい
- (3) 子育て
- (4) 成果指標

5 重点戦略

p.13

- (1) まちの創造（田舎暮らしの利便性の向上，移住・定住を促進）
- (2) ひとの創造（子育て・教育環境の充実，次世代のリーダーの育成）
- (3) しごとの創造（農林業等の活性化，地域資源を活かした新事業の創出）
- (4) こころの創造（都市部の住民との活発な交流，こころのやすらぎの提供）

1 京北の姿

(1) 概要

京北地域（以下、旧京北町を指す。）は、京都市の北西部に位置し、西と北は南丹市に接しています。面積は、217.68km²で京都市全体の4分の1を占め、その93%は豊かな森林です。

旧京北町は、昭和30年3月に周山町、細野村、宇津村、山国村、黒田村及び弓削村の1町5村が合併し、発足しました。

その後、全国的に市町村合併が進む中で、歴史や文化のつながりがあり、通勤・通学等の日常生活圏が一体化していたことなどから、平成17年4月に京都市との合併に至りました。

(2) 特徴と課題

ア 豊かな自然環境

京北地域は、丹波高原の中にあって、日本海と太平洋の分水嶺に位置し、住民の生活は、主に、桂川及びその支流等を開けた平野部を中心に営まれ、中心となる集落群でも300戸に満たない規模の64集落が散在しています。

京北地域の住民は、長い歴史の中で、花や緑、そして蛍が舞う清流など、美しい自然を守り育ててきました。春の「出逢い桜」「百年桜」をはじめ四季折々の美しい花が咲き誇り、悠久の時を超えてそびえたつ「片波の伏条台杉」、一望絶壁の岩々から水滴がほとぼしる「滝又の滝」など日本有数の貴重な自然が守られています。

また、京北地域の一部を含む、京都丹波高原は、原生的な自然林や多様な植物・野生生物が認められるなど、特筆すべき生物多様性を有しています。加えて、京都市の都市部に近接し、木材や薪炭、食糧等の供給地として、都の人々の生活・文化と密着しながら、また、地域の自然資源を持続的に利用する行事などを継承しつつ、その文化的景観や二次的自然環境が形成されてきた地域であることから、国定公園に指定される見通しです。

さらに、地域住民により、京北を四季の花々で埋めつくそうという「花降る里けいほくプロジェ

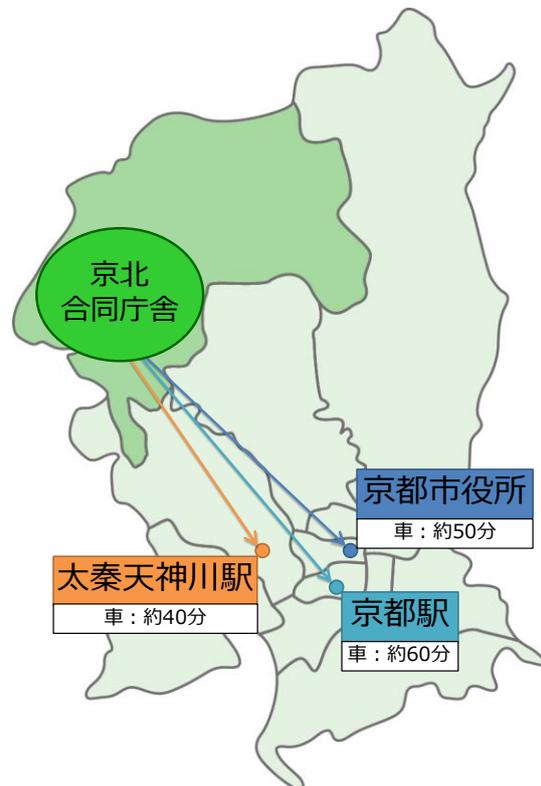
クト」が進められるなど、京北地域の自然景観は、一層美しさを増しており、今後も、先人から受け継いできた豊かな自然を守り、育む活動の更なる広がりが重要です。

イ 世界の京都の強みを徹底的に活かす

京都には、歴史力、文化力、大学力、ものづくり力、観光力、宗教力、食文化力等々、そして何よりもそれらを支える地域力、人間力などさまざまな「力」があり、世界の京都の強みとなっています。

そして、京北地域は、豊かな自然に恵まれた中山間地域でありながら、京都市の都市部まで車で40分の近距離に位置します。

このような世界の京都の強みを徹底的に活かすきり、雇用、住まい、子育てなどの施策を展開できることは他都市には類を見ない大きな魅力です。この京北地域のまちづくりにより、京北地域と都市部が相互補完し、京都市全体の更なる発展につながることを期待されます。



ウ 京都のまちを支える農林業

京北地域の産業は、古くから、スギ、ヒノキ等の豊かな森林資源を活用した、全国的にも有名な木材関連産業と米や京野菜などを中心とした近郊農業によりその基盤が構築されています。特に林業は、日本でも極めて古い歴史を持ち、^{きんり}禁裏の^{みぞまづりようち}御杣御料地（都を造るための木材生産地）として、ときの平安京の造営に膨大な量の木材を供給し、京都のまちづくりを支え、栄えてきました。現在も北山杉の磨丸太などの産地として、我が国の「木の文化」を支えているだけでなく、土砂崩れなどの災害が起こりにくくなる等の公益的機能の維持・増進にも寄与しています。

近年、京北地域の基幹産業である農林業は、需要の変化、従事者の減少、高齢化などにより、低迷が続いており、耕作放棄地や手つかずの山林の増加による貯留能力の低下が懸念されています。しかしながら、新たな担い手の転入や地域挙げての6次産業化、高付加価値農産品の栽培など、農林業の新たな動きも始まっています。

こうした状況を踏まえて、地域の景観、環境へ配慮し、他産業とも連携した、新たな農林業の活性化を図っていくことが必要となっています。



京北地域特産の京北子宝いも

エ 人口減少と新たな住民

京北地域は、少子化・高齢化の進行により、自然動態（出生・死亡に伴う人口の動き）が平成2年から減少に転じました。さらに、就労・就学による若年層の地域外への転出などにより、平成8年から社会動態（転入・転出に伴う人口の動き）

も減少傾向となり、平成27年3月の人口（推計）は、5,167人となっています。この傾向が続くと、50年後には人口が1,000人を下回ると予想されます。

豊かな自然環境と温かいコミュニティの中で、木の文化を受け継ぎ、豊かな食文化を育み暮らしてきた京北地域を、子・孫・未来の住民に引き継ぐことは、現在の世代の重要な役割であり、地域の担い手である人口の減少に歯止めをかけることが大きな課題となっています。

他方で、豊かな自然環境に惹かれた職人、芸術家など創造的な事業活動を行う人々が、これまでに約50人移住しています。こうした新たな住民と共生し、共に地域を受け継ぎ、新たな魅力を創出することで、京北地域の魅力に共感する新たなひとが定住する好循環へつなげていくことが重要です。



イタリアのミラノ万博に出品された、京北にアトリエを持つ若手女性工芸作家の作品

オ ひと、こころを育んできた歴史、文化

京北地域は、豊かな自然に加え、都との深い関わりの歴史の中で、くらしに息づく文化を育んできました。山国隊軍楽、矢代田楽、小塩の上げ松といった府指定無形民俗文化財、丹波音頭などの地域に根差した伝統芸能や行事も、大切に受け継がれており、精神的な豊かさにつながっています。

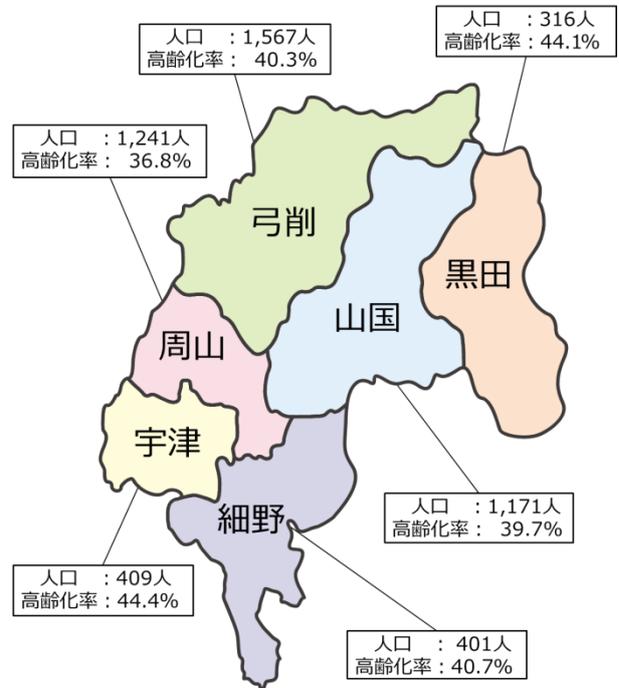
また、地域挙げての学校教育支援体制など、温かい地域コミュニティが、くらしの中に息づいています。

良好な自然環境を活かし、生かされるくらしの中で、文化を育み、地域の誇りや絆を大切にする精神的な豊かさを形成してきた地域の魅力を未来の住民に引き継ぐとともに、共感するひとが地域に癒され、創造性を発揮して社会に還元できるような好循環を生むことが、京北地域の持続可能な発展のために重要です。

京都市全体図



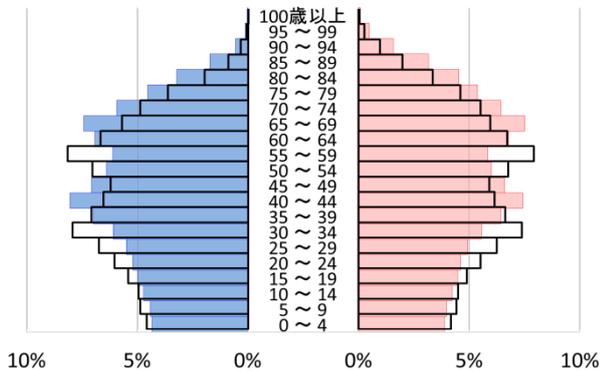
京北地域全体図



京北地域はその面積の93%が森林です。
古くから林業が基幹産業であり、樹木と共存してきたまちです。

全国の年齢階層別人口比率（国勢調査）

（平成27年4月1日時点） ■男 ■女
 （平成17年10月1日時点） □男 □女

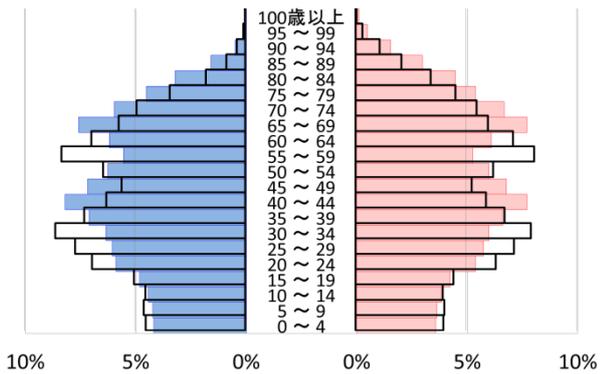


全国の人口・高齢化率推移（国勢調査）※



京都市の年齢階層別人口比率（住民基本台帳）

（平成27年4月1日時点） ■男 ■女
 （平成17年4月1日時点） □男 □女

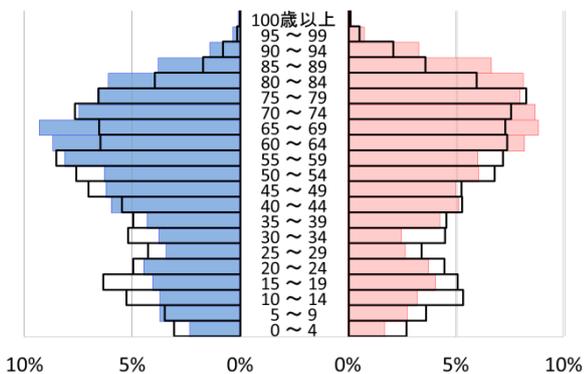


京都市の人口・高齢化率推移（国勢調査）※



京北の年齢階層別人口比率（住民基本台帳）

（平成27年4月1日時点） ■男 ■女
 （平成17年4月1日時点） □男 □女



京北の人口・高齢化率推移（国勢調査）※



※ 予測人口・予測高齢化率については、平成17年度と平成22年度の値を用いてコーホート変化率法によって算出した。

2 京都 京北未来かがやきビジョンとは

(1) はじめに

ア これまでの取組

京都市と旧京北町は、平成17年4月に合併し約10年が経ちました。本市では、右京区京北(旧京北町)が、「過疎地域自立促進特別措置法」(以下、「過疎法」)に基づく過疎地域の指定を受けたことを踏まえ、平成17年に「京都市過疎地域自立促進計画」(以下、「過疎計画」)を策定し、これまで、林道整備や農林業振興のための施策等、地域活性化に向けた事業を実施してきました。また、合併後10年間のまちづくりの基本方針等を定めた「京都市・京北町合併建設計画」に基づき、上・下水道や道の駅の整備のほか、住民の長年の悲願であった京北トンネルをはじめとする主要道路の整備を概ね完了させるなど、京北地域の発展に向けた土台づくりに取り組んできました。

イ ビジョン策定の意義(理念の共有)

自然、歴史、文化、温かい地域コミュニティなど数多くの魅力を有するこの地域を、子・孫・未来の住民に引き継いでいかなければなりません。

そのためには、まず、住民と行政が危機感を共有し、京北地域の魅力を見つめ直し、地域の未来像を共に描く必要があります。

「京都 京北未来かがやきビジョン(以下「ビジョン」という。)」は、合併から10年の節目を契機に、地域の持続的な発展に向け、まちづくりを担う様々な主体が、京北の未来像、重点戦略等を共有するために策定するものです。

(2) ビジョンの位置付け

ア 地域住民の思い、アイデアによるビジョン

ビジョンは、長期的な将来を展望するとともに、今後10年間の取組の方向性、未来像、重点戦略等を示しています。

本ビジョンは、地域住民の思いやアイデアをはじめ、外部有識者の知見や発想、全庁体制による

検討を踏まえ、行政が実施主体となるものだけでなく、地域や事業者等の取組を含め、京北地域で「ちょっと便利な田舎暮らし」ができるよう、必要な施策や事業を盛りこんで策定するものです。

イ 「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」の重要な戦略となるビジョン

日本は人口減少が急速に進みつつあります。国はこの問題に対し、各地域が個性と魅力あるまちづくり、ひとづくり、しごとづくりに力を注ぐことで、多様な地域社会を実現し、人口減少の克服をめざす「地方創生」を進めています。

京都市では、この「まち・ひと・しごとの創生」に加え、「こころの創生」を重視した京都市版地方創生に取り組もうとしています。

すなわち、人口の維持のみを追求するのではなく、夢や希望、精神的な豊かさ、家族や地域の絆、日本伝統の美意識や価値観、生き方の哲学や暮らしの美学など、日本の「こころ」の創生を重視して、誰もが心豊かに生き、働き、学び、暮らせる社会の実現を目指し、その取組指針となる「総合戦略」の策定に取り組んでいます。

本ビジョンは、京北地域はもちろんのこと、本市の北部山間地域全体の活性化も視野に入れた、人口減少社会克服の道筋を明らかにするもので、「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」における重要な戦略に位置づけられるものです。

ウ 過疎計画の基礎となるビジョン

現行の過疎計画は、平成28年3月に計画期間が終了しますが、平成24年の過疎法改正により、平成32年まで計画期間の延長が可能となりました。これを受け、平成27年度、ビジョンに基づいて行政が取り組む内容を示す新たな過疎計画を策定します。

(3) 策定の経過

ア 地域住民とのワークショップ

京北地域の現状及び今後のまちづくりについて、住民と行政が意見交換を重ねてきました。

① 6地区の地域住民及び消防団員とのワークショップ（全7回、意見数1,151件）

観光資源として豊かな自然環境を持つ一方で、それらの情報発信や宿泊施設の不足、交通インフラ整備、雇用確保の必要性など様々な意見が寄せられました。

② 京北まちづくりカフェ（第一期：平成26年6月～9月）（全4回、意見数167件）

京北の将来像について話し合われました。

③ 京北まちづくりカフェ（第二期：平成26年10月～平成27年3月）（全6回、意見数386件）

京北地域の魅力、活性化のアイデアについて話し合われました。

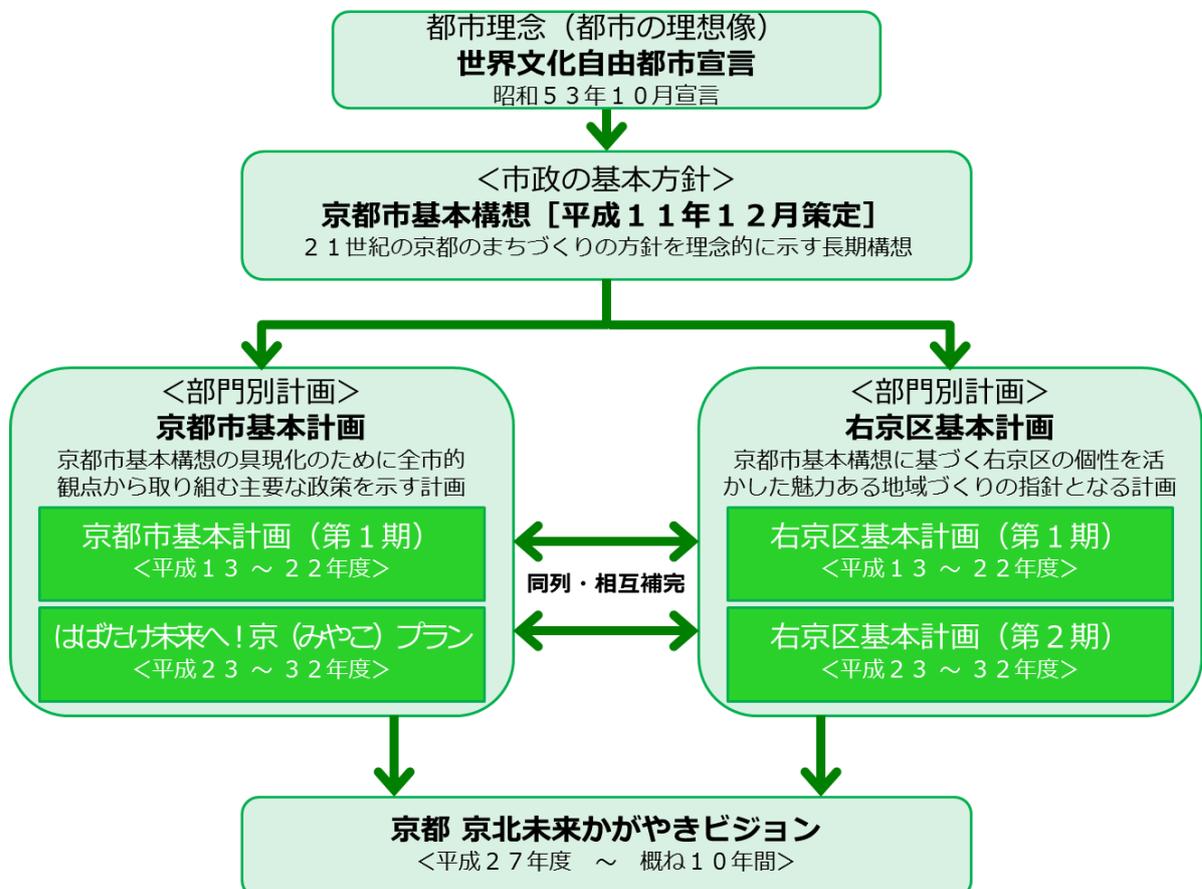
イ 京北未来創造研究会

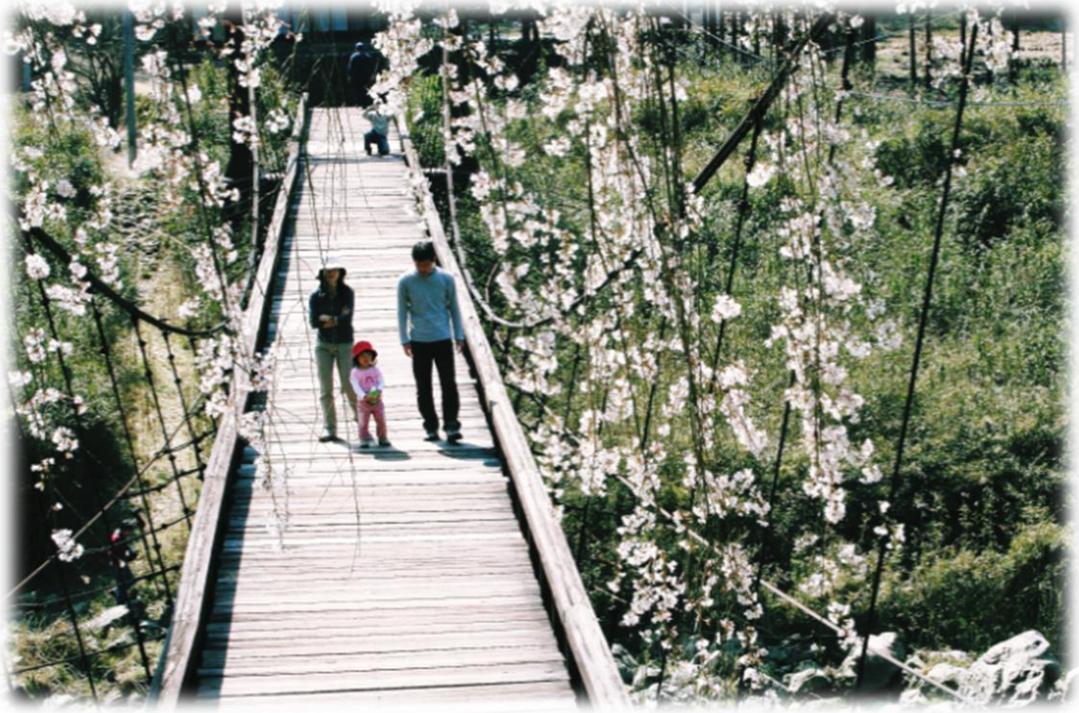
京北地域の実情や、まちづくりのノウハウ等に精通した有識者3名を中心に「京北未来創造研究会」を3回開催しました。同研究会においては、未来像や理念をはじめ、ビジョンの策定に向けて、それぞれの立場や専門的知見から、活発に議論を行っていただきました。

土井勉（京都大学大学院工学研究科特定教授）
佐々木雅幸（同志社大学経済学部特別客員教授）
久保敏隆（京北自治振興会長）

ウ 京北地域活性化企画本部

京北地域の活性化に向け、幅広い施策の融合を図る必要があることから、本市の各部局の部長級等26名により「京北地域活性化企画本部」を組織し、会議を5回開催しました。同会議では、「京北未来創造研究会」での議論も踏まえつつ、各部局等が必要な施策等について議論を行いました。





3 京北の未来像（わたしたちが目指す10年後の京北）

わたしたちは、京北の未来像として

人と自然，文化が輝く，京北版「創造農村*」を目指します！

(1) 快適で文化的な田舎暮らしを実現！

～まちの創造～

受け継がれてきた豊かな森，清流などの自然を満喫しつつ，超高速インターネット環境や公共交通網が整備され，自然災害にも安心安全で快適な田舎暮らしが実現されている。

(2) 次代を担う若者を常に輩出！

～ひとの創造～

豊かな歴史，文化，自然，コミュニティなど恵まれた学びの環境に生まれ，農林業や地域活動を牽引（ファシリテート）する地域の担い手はもとより，世界で活躍するビジネスリーダーや芸術家が常に輩出されている。

(3) 地域循環型の産業と雇用を創出！

～しごとの創造～

広大な土地や豊かな自然等京北地域の資源を活かし，開発型の産業ではなく，地域内で循環し，都市部等とも相乗効果を発揮する持続可能な経済が営まれ，誇りを持てる魅力ある雇用（しごと）を人々が愉しんでいる。

(4) 住民と来訪者に癒しと憩いを提供！

～こころの創造～

世界の京都の一角を占める優位性を徹底的に活かし，歴史と自然を感じながら，田舎暮らしを楽しみ，あるいは文化，芸術など創造的な活動の場として人々が交流する「こころのふるさと」となっている。

交流を通して，こころの潤い・人間性の回復をもたらしている。

そのために，わたしたち京北住民は，以下の理念に基づき行動します。

- 1 京北住民の誇りを再認識します。
- 2 子どもが増え，育ち，高齢者が元気な地域をつくります。
- 3 住民が主役となって創造的なまちづくりをします。
- 4 多様な人々が交流を重ね，楽しいまちづくりをします。

※未来像実現のために，京北住民が主体的に行動する思いを込めて，一人称で表現しています。

*「創造農村」とは，佐々木雅幸氏（同志社大学経済学部特別客員教授）により定義される「住民の自治と創意に基づいて，豊かな自然生態系を保全する中で固有の文化を育み，新たな芸術・科学・技術を導入し，職人的ものづくりと農林業の結合による自律的循環的な地域経済を備え，グローバルな環境問題や，あるいはローカルな地域社会の課題に対して，創造的問題解決を行えるような『創造の場』に富んだ農村」を指します。（佐々木雅幸・川井田祥子・萩原雅也（2014）『創造農村 過疎をクリエイティブに生きる戦略』学芸出版社）

4 京北の未来像を実現するための3つの視点

京北の未来像を実現するためには、「雇用（しごと）」、「住まい」、「子育て」の3つの視点で考えることが重要です。

（1）雇用（しごと）

京北地域で働き、住み続けたい人々や、地域の魅力に惹かれ移住したい人々が、自立して暮らすには、雇用を確保することが重要です。

ア 京北の経済基盤となる農林業

京北地域は、豊富な森林資源を有する林業の地であり、また、豊かな自然の中で生産されてきた農林産物を都市部にも供給してきた地域です。これからも、農林業を自然を豊かにする基幹産業として位置づけながら、教育、環境、観光などの他の産業とも連携し、相乗効果による活性化を目指し、地域での雇用を確保することが必要です。

イ 歴史、文化や豊かな自然を活かした観光業

平安京の時代から都の暮らしを支えてきた歴史、大切に受け継がれてきた伝統文化、四季折々の花や清流などの豊かな自然を活用した観光業の振興が必要です。また、京北を訪れる人々が、自然に癒され、京北地域の住民との交流を通して人間性の回復が図れることも重要です。

ウ 創造的な産業

職人や芸術家など創造的な事業活動を行う人々が、京北地域に魅力を感じ、これまでに約50人が移住しています。この流れを加速し、積極的に職人や芸術家を誘致し、技や創造力を活かしながら、新たな価値を生み出し、まちづくりにつなげていくことが必要です。

エ 企業の立地促進

京北地域の強み・誇りである豊かな自然環境と歴史や伝統文化を活かし、産学官民連携による新たな雇用の創出を図るとともに、京都市街地への

近接性を最大限に活かした、企業や新たな産業の誘致・集積が必要です。

（2）住まい

京北地域で、住み続けていくためには、移住希望者が希望に合った物件と出会え、地域に溶け込み安心して暮らしていけるよう、移住・定住を促進する仕組みと地域の理解と協力が重要です。

ア 豊かな自然、歴史や伝統文化を活かす定住促進

京北地域の強みである豊かな自然と歴史や伝統文化を活かして、子育て世帯をはじめ多様な人々を積極的に受け入れるとともに、住みやすく活動しやすい環境づくりを進めることが必要です。

イ 住みやすさの向上

都市部へのアクセスが容易で通勤も可能であるという距離的な強みを活かすとともに、空き家情報などを希望する人がワンストップで情報を取得できる仕組みづくりや情報通信環境の整備が必要です。

ウ 空き家の流通促進

京北地域では、古民家など空き家が200軒以上あると推定されていますが、多くが賃貸や売却の対象になっていない状況です。

若者世代・子育て世代などの移住希望者の定住を促進するため、安価で安心して賃借できる空き家の流通体制の構築が必要です。

エ 人との温かいつながり

京北地域では、田舎暮らしを楽しみ、人々が交流する「こころのふるさと」となることを目指します。そのために、来訪者を温かく迎え入れるための人材を育成し、こころの豊かさ・愉しさを価値として提供することが必要です。

(3) 子育て

京北地域の将来の担い手を育てるとともに、京北地域から世界へはばたく人材を輩出するなど、京北地域の教育・子育て環境を更に充実することが重要です。

ア 地域への誇りを醸成するとともに、世界で活躍する人材育成に向けた教育

地域社会の持続的な発展のためには、将来を担う子どもたちが、地域に愛着を持てるよう育んでいくことが大切です。また、ますますグローバル化する社会の中において、子どもたちが国際的な視野を持ち、世界で活躍する力を身に付けることも求められています。そのため、京都市都市部の近郊に位置しながら自然環境に恵まれ、温かいコミュニティが暮らしの中に生きる京北地域の特色を活かし、地域全体で子どもたちの健やかな成長を支える持続可能社会の子育て・教育環境を充実していく必要があります。

イ 大学・学生のまち

大学・専門学校などの多様な高等教育機関が集積する都市部との近接性を最大限に活かした魅力ある教育環境の充実が必要です。

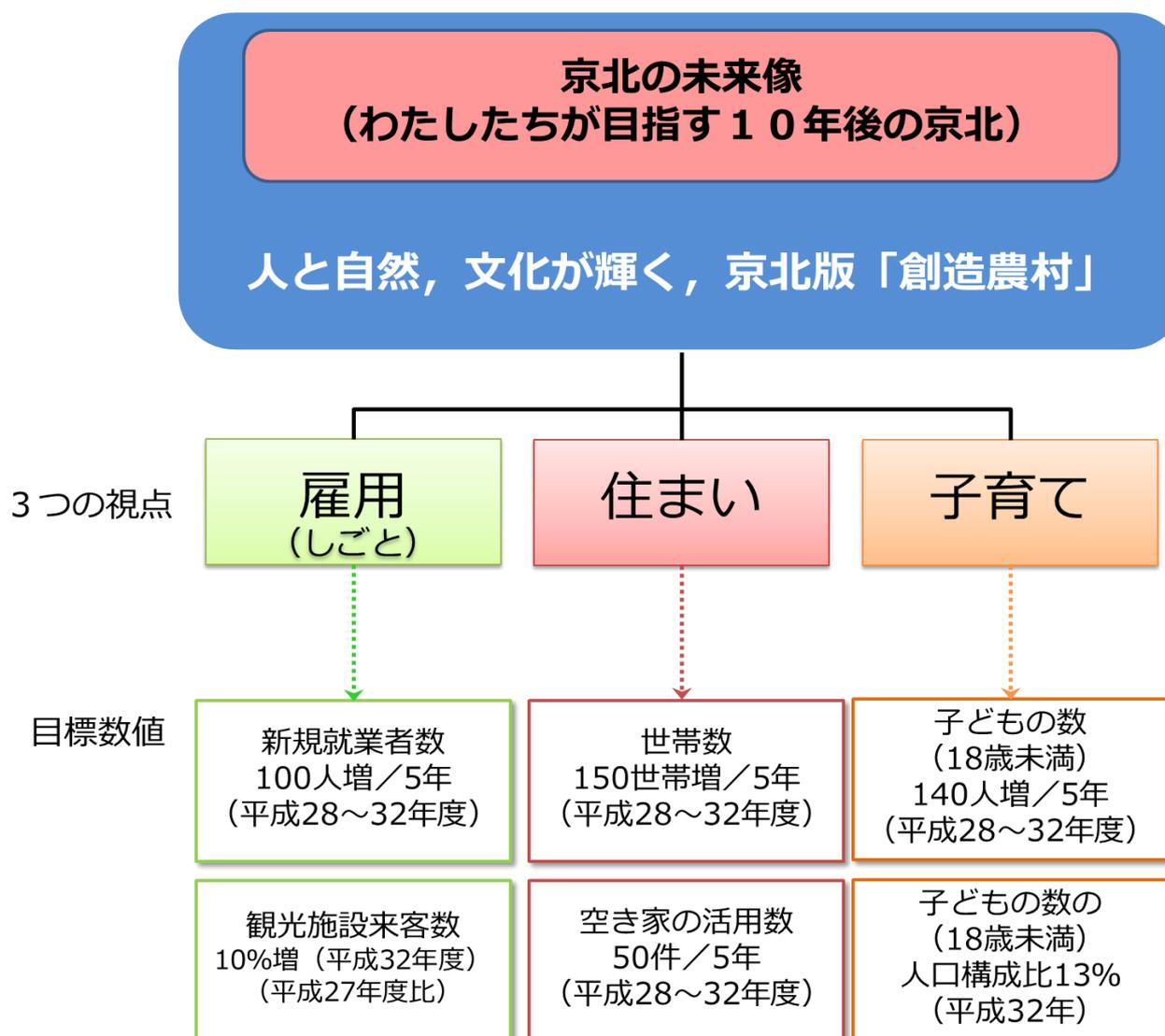
現在も、5つの大学が京北地域をフィールドとした研究活動を進めており、今後も教育・研究機関をさらに積極的に受け入れ、その結果をまちづくりに活かす必要があります。

ウ 地域全体で子どもを育む「共育」

つどいの広場や地域学童クラブなどを通して、地域の方々が子どもたちの育ちを支えるとともに、見守り活動や住民相互の子育て支援活動等により、安心・安全で子育てに優しい地域づくりを目指すなど、地域全体で子どもを育む「共育」の推進が必要です。

(4) 成果指標

本ビジョンで掲げている未来像を実現するために、雇用、住まい、子育ての3つの視点について、それぞれ目標数値を設定し、取り組みます。



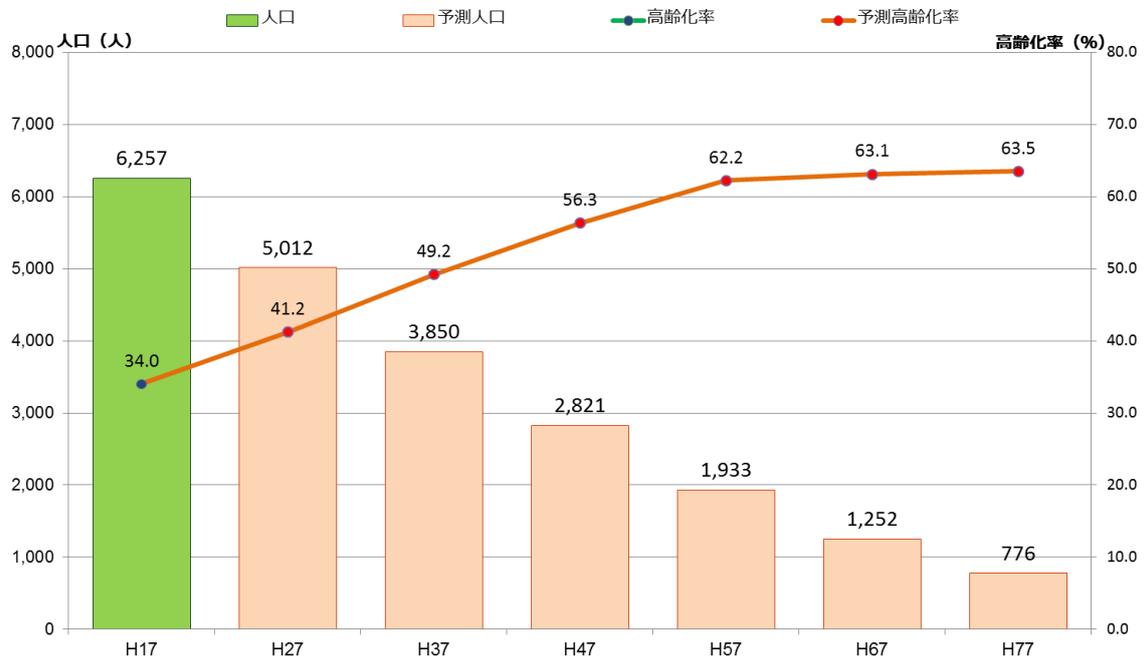
目標数値の考え方

京北地域の人口の減少に歯止めをかけるには、年間30世帯（1世帯は大人2人、子ども1人を想定）増加が必要であることから、目標数値は5年で「世帯数150世帯増」とします。

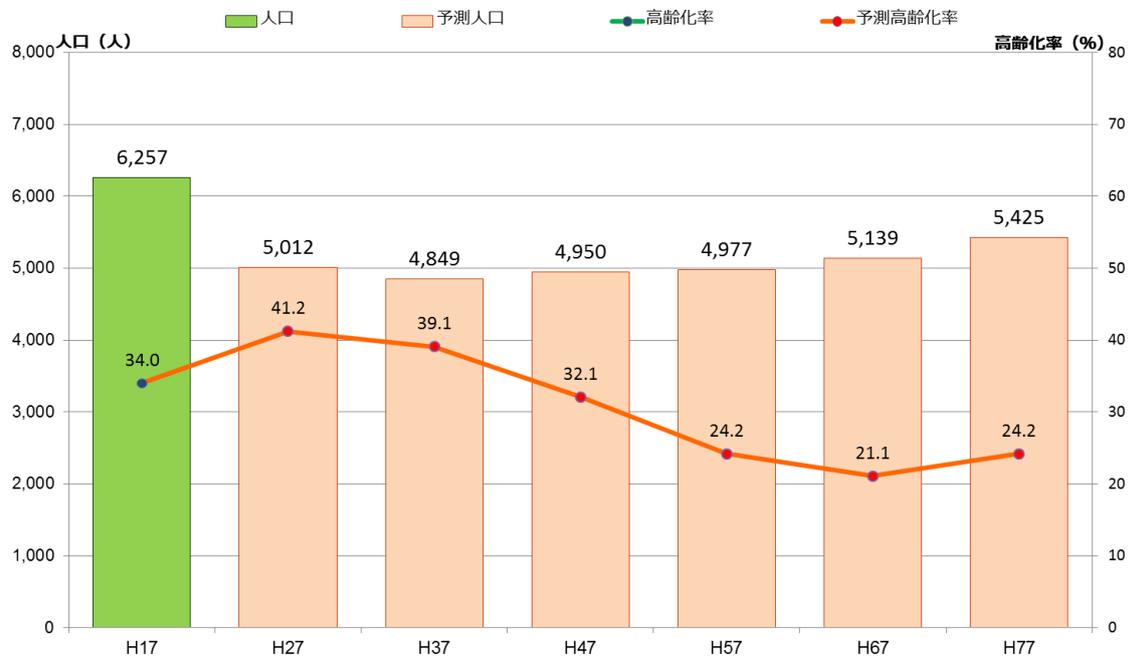
また、「新規就業者数」、「空き家の活用数」、「子どもの数」、「子どもの数の人口構成比」についても、年間30世帯の増加を基礎に設定しています。

これらの目標数値が達成できれば、概ね2025年（平成37年）を境に人口増加に転じる見通しです。

< 現状趨勢 >



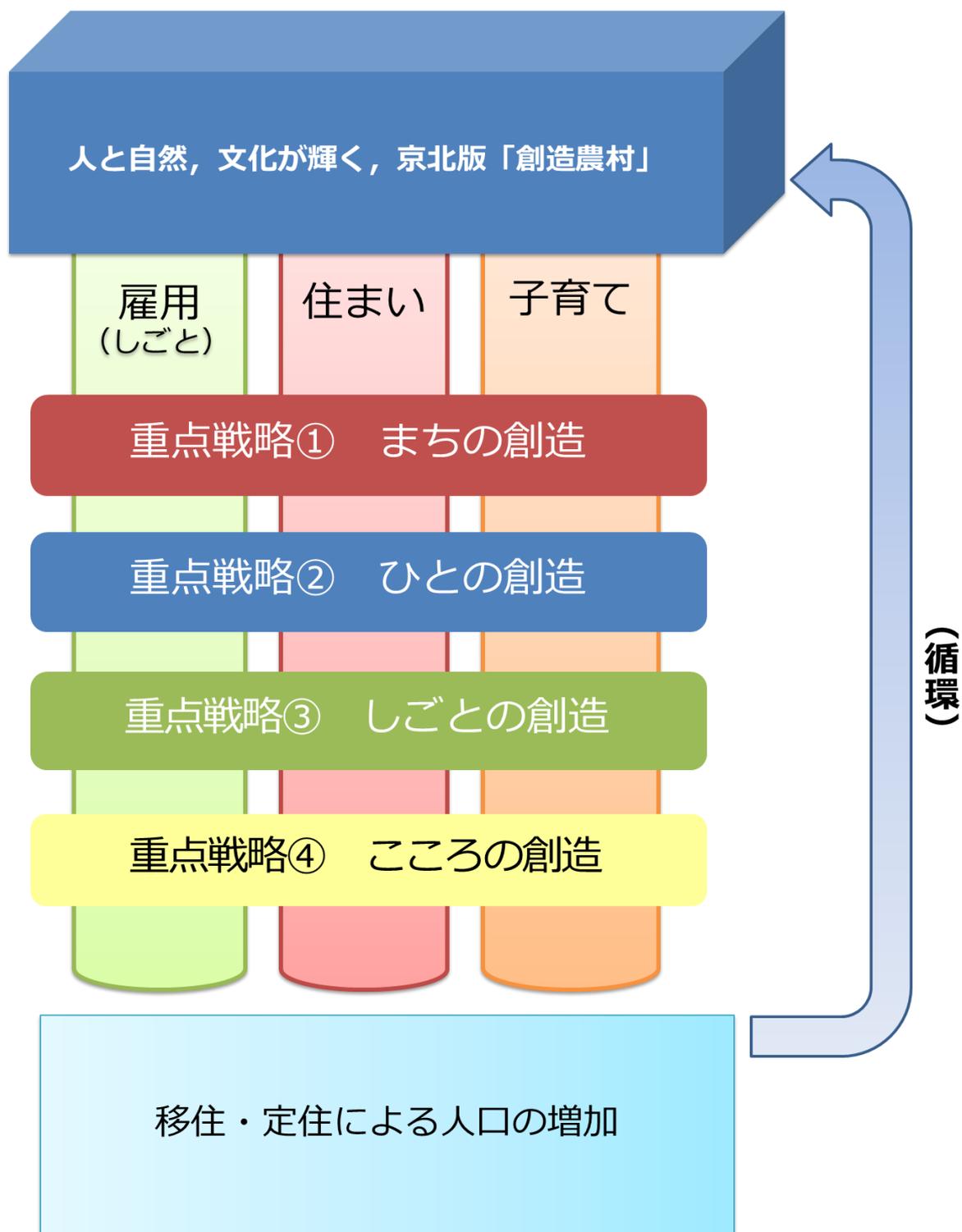
< 年 30 世帯増 >

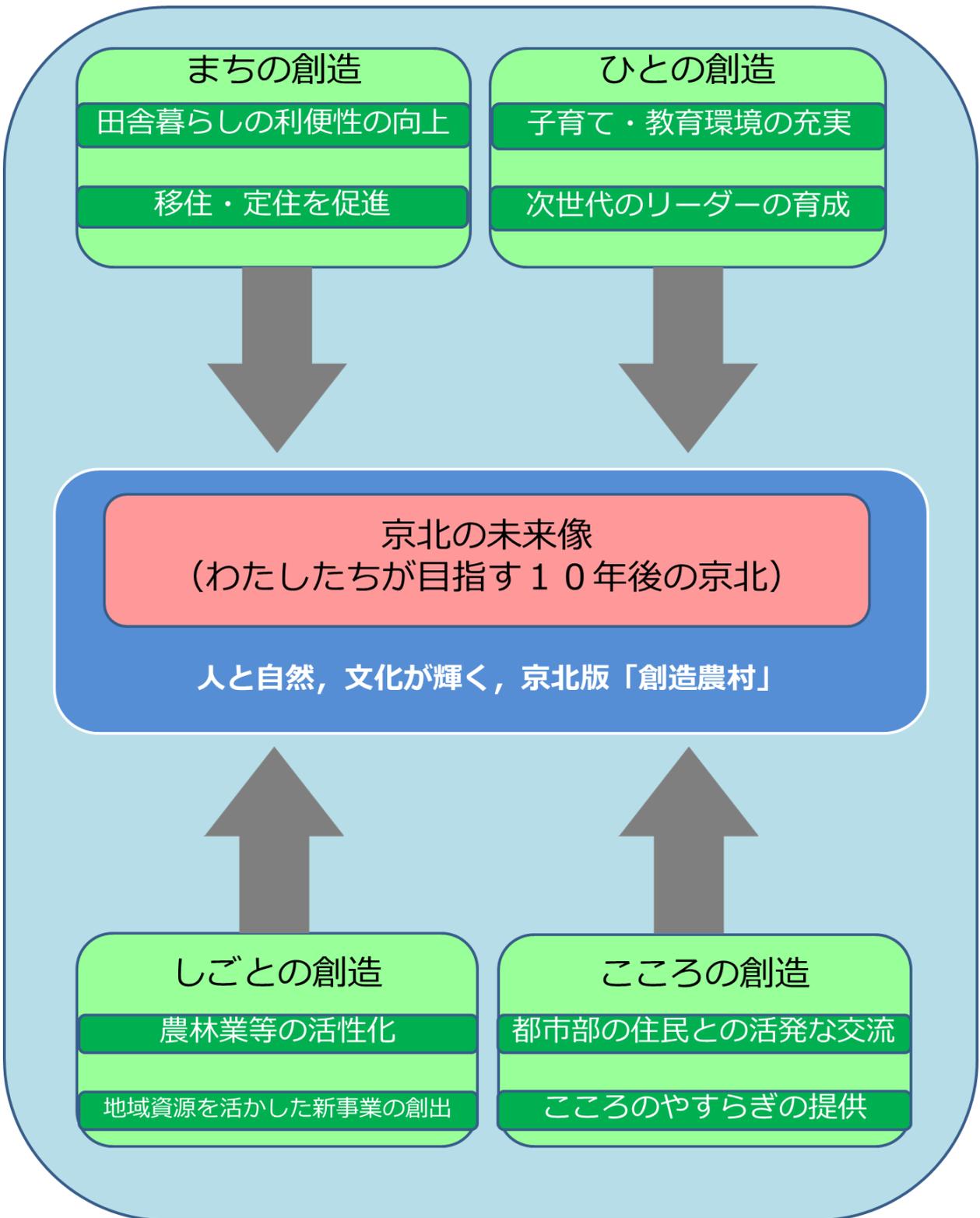


※ 予測人口・予測高齢化率については、平成17年度、22年度の値を用いてコーホート変化率法によって算出した。

5 重点戦略

京北の未来像を実現するための3つの視点「雇用」、「住まい」、「子育て」に沿って優先して実施する各取組について、「まちの創造」、「ひとの創造」、「しごとの創造」、「こころの創造」の4つの重点戦略に基づき、地域住民、事業者、NPO・学術機関等と京都市が一体となって推進します。

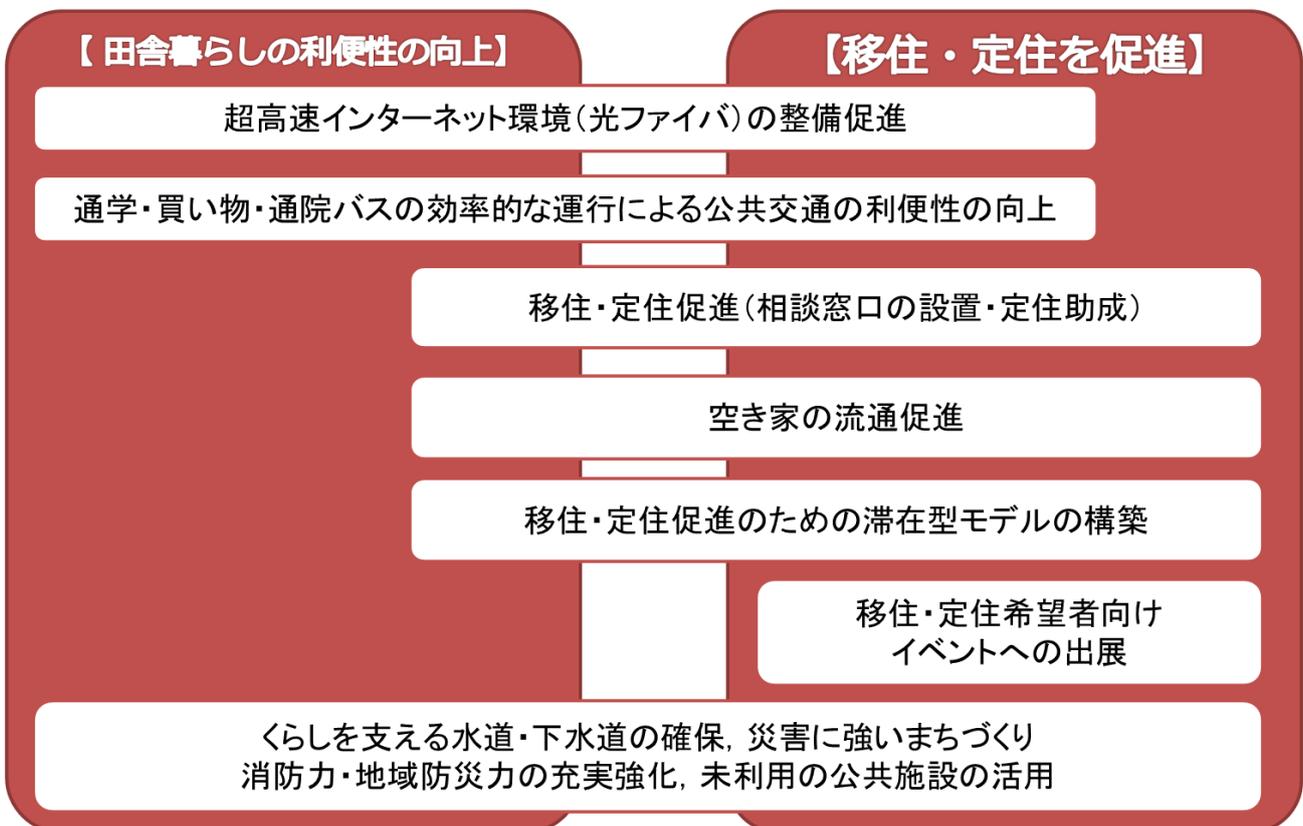
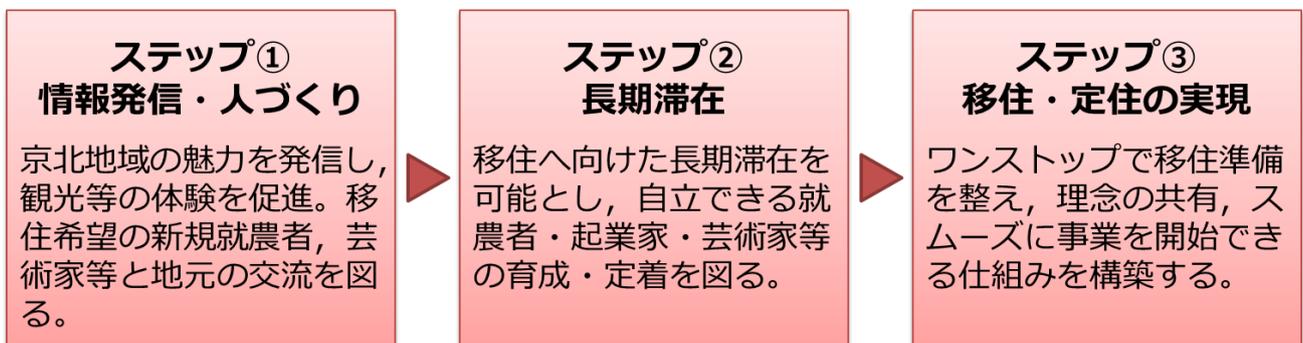




(1) まちの創造 (田舎暮らしの利便性の向上, 移住・定住を促進)

豊かな自然や伝統文化を未来へ引き継ぐとともに、超高速インターネット環境の整備や公共交通（バス）の再編により、田舎暮らしの利便性を高めます。また、移住・定住に関する相談窓口や助成制度を創設し、都市部に近接している優位性を最大限に活かして、都市との交流や移住・定住を促進します。

まちの創造へのステップ



施策のイメージ

目玉施策

ア 超高速インターネット環境（光ファイバ）の整備促進＜地域，事業者，行政＞

地域での積極的な利用や，市からの整備費用の支援などにより，事業者による光ファイバの整備を促進します。

イ 通学・買い物・通院バスの効率的な運行による公共交通の利便性の向上＜地域，事業者，行政＞

京北ふるさとバスやスクールバス，京北病院送迎車の運行方法の再検討をはじめ，南丹市営バスや西日本ＪＲバス等との連携を推進するなど，社会的インフラとして公共交通網の再構築を図るとともに，持続可能で利用しやすい「地域が育む」公共交通を目指します。

ウ 移住・定住促進（相談窓口の設置・定住助成）＜地域，事業者，行政＞

移住希望者のニーズに合った住まいをマッチングするため，プラットフォームとなる中間支援組織を設置します。また，移住・定住に向けた長期滞在や，住まい・しごと探し，移住後の様々な相談に応じる窓口を設置するとともに，ポータルサイト開設により移住希望者に必要な情報を発信します。さらに，移住・定住に向けた田舎暮らしのための必要経費の助成を検討します。

エ 空き家の流通促進＜地域・事業者・行政＞

空き家の所有者に対する流通意向確認をするとともに，空き家のマッチングサービスの充実・利便性向上を図り，空き家所有者が安心して賃貸できる環境を整備します。例えば，市が直接空き家を借り上げたり，必要な改修を行うなど，若者世代・子育て世帯の移住希望者の定住を促進します。

また，京北の暮らしを今に伝える古民家を再生し，移住・定住者向けの住宅として活用することにより，豊かな文化や景観を未来に引き継いでいきます。

新規・充実施策

オ 移住・定住促進のための滞在型モデルの構築＜地域，事業者，行政＞

長期滞在し，価値ある時間を過ごせる拠点を整備するとともに，クリエイティブな人材を集め，地域住民との協働の場を創出します。

カ 移住・定住希望者向けイベントへの出展＜地域・行政＞

「ふるさと回帰フェア」等の移住・定住希望者を対象としたイベントにおいて，京北地域の魅力を積極的に発信します。

キ くらしを支える水道・下水道の確保＜行政＞

安全・安心，衛生的で快適なくらしを支えるため，水道・下水道施設の整備及び耐震化等を進めます。また，合併以降，地域事業として運営してきた京北地域の水道・下水道事業を，都市部の事業と統合し，より安定的な事業実施，効率的な経営を目指します。

ク 災害に強いまちづくり＜行政＞

安心して暮らせる環境をつくるため，道路・河川の改修，土砂災害ハザードマップの配布，雨量情報の提供（京都市版エックスレイン），要配慮者に対する情報伝達体制の強化・避難支援計画の策定，備蓄の拡充に取り組みます。

ケ 消防力・地域防災力の充実強化＜地域，行政＞

大規模災害への対応力の強化のため，消防団員の増員，応急給水用仮設給水栓や給水車を活用した応急給水体制の充実，関係行政機関による連携強化等について取り組みます。また，災害時において「自助・共助」の活動主体となる，自主防災組織の活動能力を向上させるため，自主防災会ごとに地震・水災害・土砂災害に対応するための防災行動マニュアルを作成し，防災訓練等を活発に行うことで，地域防災力の強化を図っていきます。

コ 未利用の公共施設の活用＜地域，事業者，行政＞

移住者が起業する際の拠点や，芸術家，職人の工房，ＩＴ技術者のシェアオフィス等として，元小学校等の未利用の公共施設を活用します。

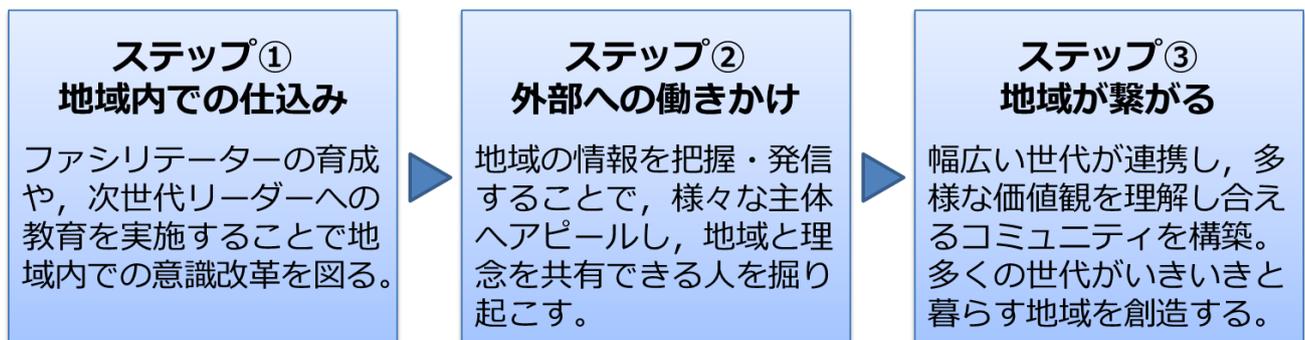
(2) ひとの創造 (子育て・教育環境の充実, 次世代のリーダーの育成)

京北地域の自然や歴史, 伝統文化等に根ざした教育プログラムを推進し, 人のつながりや地域コミュニティを活かして, 郷土を愛する態度を育むとともに, 世界で活躍できる児童・生徒を育みます。

併せて, 住民が主役の持続的なまちづくりに取り組むため, 次世代のリーダーや地域の方々の意見や考えを引き出すファシリテーターを育成します。

※ファシリテーター: 集会などで議題に沿って意見を整理し, 内容が偏らないよう進行を促進する役割

ひとの創造へのステップ



【子育て・教育環境の充実】

地域に誇りを持ち, 世界で活躍する人材育成に向けた小中一貫教育の推進

京北の地域力を活かした「公助・共助」による子育て支援の推進

【次世代のリーダーの育成】

地域における次世代のリーダー, ファシリテーターの育成

地域おこし協力隊員との協働による地域の活性化

京北地域6地区におけるコミュニティの活性化のための拠点づくり

図書館のまち構想

超高速インターネット環境(光ファイバ)の整備促進
くらしを支える水道・下水道の確保, 災害に強いまちづくり
消防力・地域防災力の充実強化, 未利用の公共施設の活用

施策のイメージ

目玉施策

ア 地域に誇りを持ち、世界で活躍する人材育成に向けた小中一貫教育の推進<行政>

京北第一小学校，第二小学校，第三小学校と周山中学校の3小学校1中学校の連携のもと，小中一貫教育を推進し，京北ならではの，自然や歴史，伝統文化，人と人のつながりを大切にする地域コミュニティを活かして，子どもたちに，郷土を愛する態度を育むとともに，ALT（外国語指導助手）や地域のボランティア等の積極的な活用による英語教育の充実など，今後ますますグローバル化する社会において，国際的な視野を持ち，次代と自らの未来を切り拓く子どもを育成します。

イ 京北の地域力を活かした「公助・共助」による子育て支援の推進<行政>

乳幼児を持つ子育て中の親とその子どもが気軽に集い交流を図るつどいの広場の開設や，昼間留守家庭児童の遊びと生活の場となる地域学童クラブへの事業補助のほか，元気な高齢者をはじめとする地域住民が子育て支援等に幅広く活躍するファミリーサポート事業の京北地域での展開等，乳幼児期からの切れ目のない子育て支援施策を実施する仕組みを構築します。

ウ 地域における次世代リーダー，ファシリテーターの育成<地域，行政>

未来のまちづくりについて語り合う「京北まちづくりカフェ」や，研修プログラムの実施を通じて，次世代のまちづくりを担うリーダーやファシリテーターを育成します。

エ 京北地域6地区におけるコミュニティの活性化のための拠点づくり<地域，事業者，行政>

京北地域の6地区に立地する自治会館等の公共施設を地域の自治活動と防災の拠点として，地域住民が気軽に集え，多様な文化活動に活用できるよう，コミュニティ活性化の拠点として再整備します。

オ 地域おこし協力隊員との協働による地域の活性化 <地域，行政>

京北地域に生活の拠点を移し，地場産業の開発，販売，PR等を行う「地域おこし協力隊員」を全国から募集し，地域住民，行政とともに地域の活性化に取り組みます。

新規・充実施策

カ 図書館のまち構想<地域，事業者，行政>

京北地域には子どもから大人まで本に親しんできた素地があります。これらを活かし住民の方々の積極的な参加・運営のもと，本に親しむことができる京都一の図書館のまちを目指します。

キ 超高速インターネット環境（光ファイバ）の整備促進<地域，事業者，行政>（再掲）

ク くらしを支える水道・下水道の確保<行政>（再掲）

ケ 災害に強いまちづくり<行政>（再掲）

コ 消防力・地域防災力の充実強化<地域，行政>（再掲）

サ 未利用の公共施設の活用<地域，事業者，行政>（再掲）

(3) しごとの創造 (農林業等の活性化, 地域資源を活かした新事業の創出)

地域資源を活用した農林業の活性化を図るため、収益性の高い農作物の育成や6次産業化を推進します。

また、地域資源の活用をはじめ福祉、エネルギー等の社会的課題の解決に向けたソーシャル・イノベーションの推進、創造的活動や農業等による自立した定住の実現支援、事業所の誘致等により、多様で魅力ある雇用（しごと）を生み出します。

しごとの創造へのステップ

ステップ① 農林業等の活性化

京北ならではの付加価値化等による農林業の経営力強化と魅力向上等による農林業等の活性化。

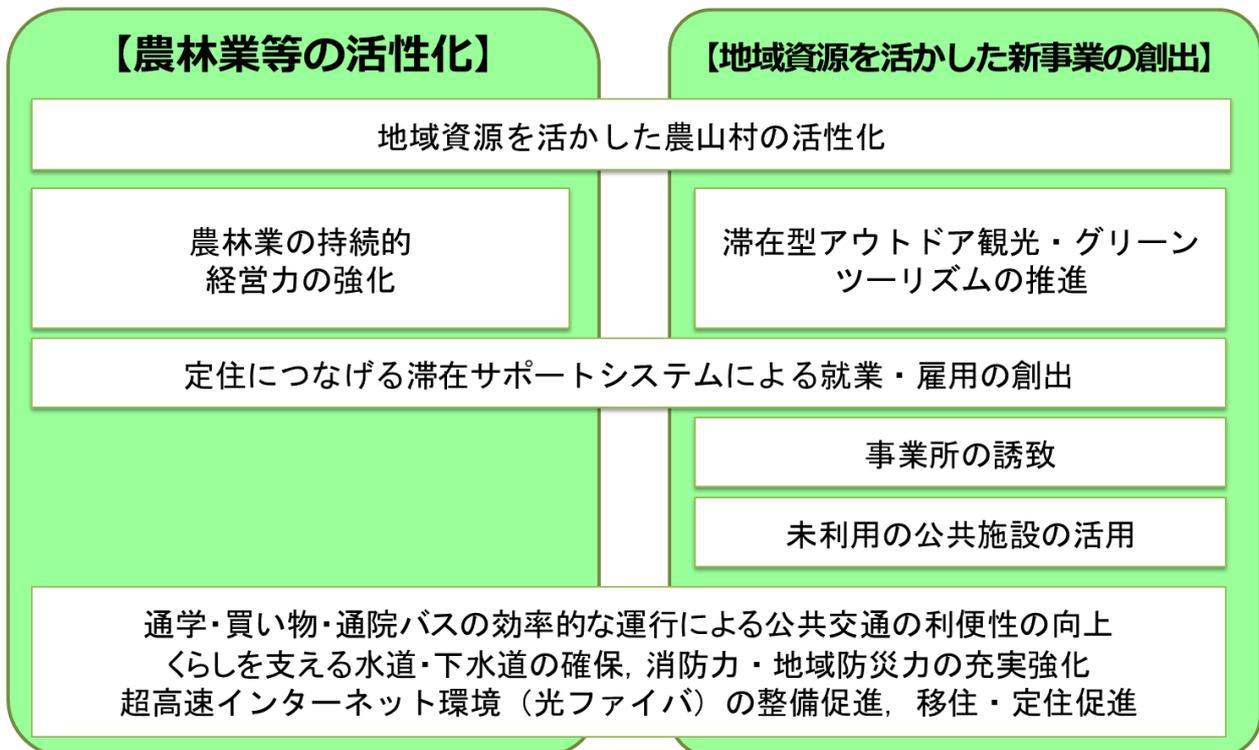
ステップ① 地域資源を活かした新事業の創出

豊かな自然等地域の資源を活かした新事業の創出と事業所の誘致等。

ステップ②

産業の重層化・魅力あるしごとの創造

豊かな自然や都心部への近接性を活かした京北地域ならではの産業の重層化と多様で魅力あるしごとの創造。



施策のイメージ

目玉施策

ア 地域資源を活用した農山村の活性化<地域, 事業者, 行政>

地域内に存在する木質バイオマスのエネルギー利用（木質ペレットの更なる活用，木質バイオマス発電の事業化に向けた検討等），ハゼ，クロモジ等地域資源を活かした新たな商品開発を推進します。

イ 滞在型アウトドア観光・グリーンツーリズムの推進<地域, 事業者, 行政>

ジビエ，キノコ，鮎，山菜，納豆，地酒などの食や，合併記念の森や常照皇寺といった花の名所の魅力を活かすとともに，道の駅「ウッディー京北」の情報発信機能等を強化します。

また，農家民宿の開業に関する規制緩和（27年3月～）の運用開始に伴い，既に開業準備を進めている3軒に加え，グリーンツーリズムの要として開業・普及を促進します。併せて，美しい自然風景を活かしたロケ地としての活用や，京北森林公園，京都一周トレイル（京北コース），自転車歩行者専用道路等を活用した自転車観光の充実など，アウトドアスポーツの魅力を高める取組を進めます。

ウ 定住につなげる滞在サポートシステムによる就業・雇用の創出<地域, 事業者, 行政>

移住希望者が長期滞在型のレンタルコテージや空き家等に滞在しながら，シェアオフィス・工房等を活用した創作活動や農の学校制度（仮称）を活用した農業の実習によって，自立・定住を目指せるよう，総合的に支援する仕組みをつくりまします。

エ 農林業の持続的経営力の強化<地域, 事業者, 行政>

米のブランド化をはじめ，京北子宝いもや京唐菜等の新京野菜，トウキ等の薬草やヤマザクラ，カスミザクラ等の地域性苗木といった収益性の高い農作物等の新たな産地育成，大豆，蕎麦などの土地利用型作物の生産拡大やそれらを活用した加工品の開発支援など農業の高付加価値化，6次産業化を推進します。

さらに，野生鳥獣による農林産物被害の軽減を図るため，総合的な野生鳥獣対策を推進します。また，林業技能選手権の開催など，地域林業を活かし持続可能社会の実現を目指した拠点等としての「合併記念の森」の活用，市内産木材「みやこ杉木」の生産・加工体制の整備を進めます。

新規・充実施策

オ 事業所の誘致<地域, 事業者, 行政>

地域住民と協働した誘致戦略の構築・発信，企業立地促進助成制度の活用により，京都市都心部に近接した地の利や地域資源を活かす事業所等の立地を促進します。

カ 未利用の公共施設の活用<事業者, 行政>（再掲）

キ 通学・買い物・通院バスの効率的な運行による公共交通の利便性の向上<地域, 事業者, 行政>（再掲）

ク くらしを支える水道・下水道の確保<行政>（再掲）

ケ 消防力・地域防災力の充実強化<地域, 行政>（再掲）

コ 超高速インターネット環境（光ファイバ）の整備促進<地域, 事業者, 行政>（再掲）

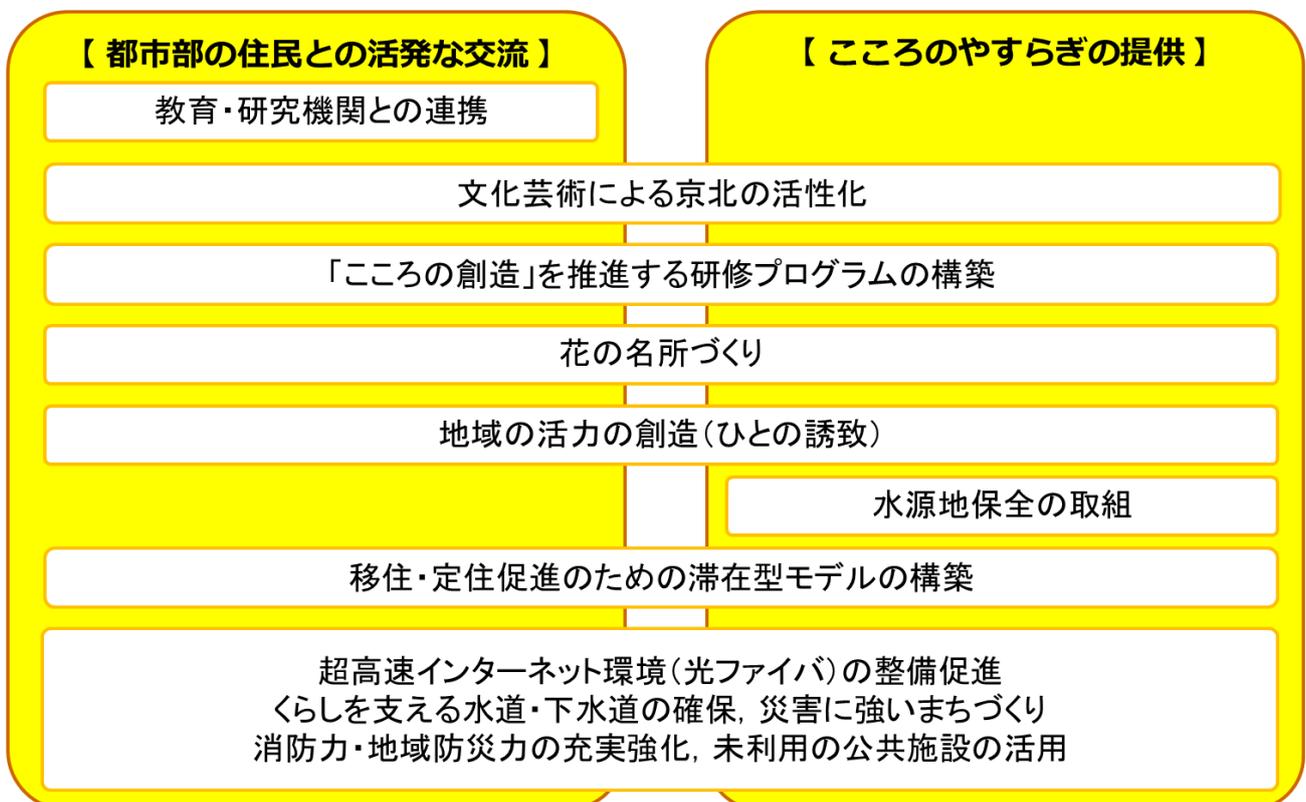
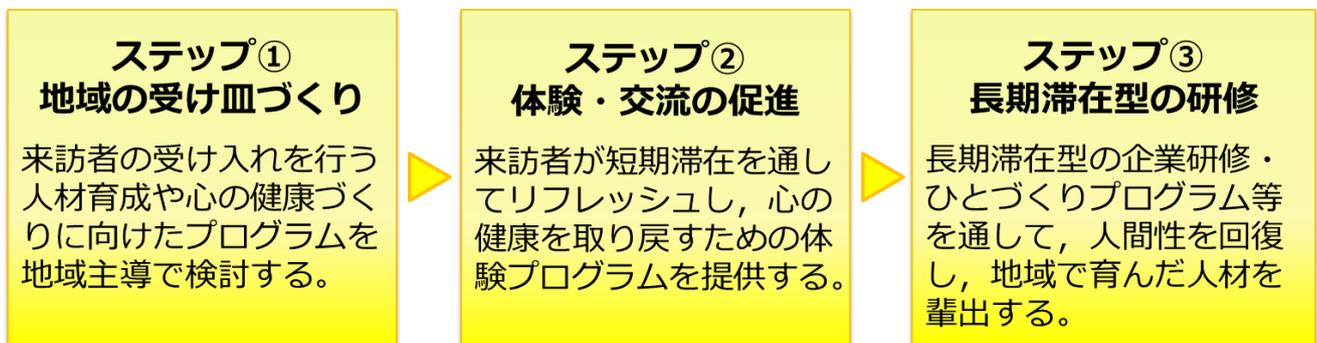
サ 移住・定住促進<地域, 事業者, 行政>（再掲）

(4) こころの創造 (都市部の住民との活発な交流, こころのやすらぎの提供)

豊かな自然や伝統文化を背景とした、田舎暮らしに魅力を感じる都市部の住民を温かく迎え入れ、活発に交流し、楽しいまちづくりを進めます。

温かいコミュニティの中でひとを大切にしてきたこころ豊かな風土を受け継ぎ、住む人・訪れる人にこころのやすらぎを提供します。

こころの創造へのステップ



施策のイメージ

目玉施策

ア 教育・研究機関との連携＜事業者，行政＞

大学，学生のまち京都の特性を活かして，現在も研究活動を進めている大学等に加え，学部や研究室，さらには企業の研究所や研修施設の誘致を推進します。また，高校・大学のクラブ活動の合宿等の受入をゼミナールハウスと提携して行います。

イ 文化芸術による京北の活性化＜事業者，行政＞

職人や芸術家など創造的な事業活動を行う人々が，これまでに約50人移住している流れを加速し，積極的に誘致し，新たな価値を生み出すなど文化芸術を核とした活性化を推進します。

ウ 「こころの創造」を推進する研修プログラムの構築＜地域，事業者，行政＞

京北地域には都市で失われつつある「こころの豊かさ・ゆしさ」を取り戻すきっかけとなる多くの要素が残されています。この強みを活かし，主に都市部の人々を対象に“こころの豊かさ・ゆしさ”を提供することを目指します。研修プログラムでは，京都議定書の採択の地として心身をリフレッシュするアクティビティや各種プログラムを構築し，未利用の公共施設等を活用して提供していきます。

新規・充実施策

エ 花の名所づくり＜地域，事業者，行政＞

「花降る里けいほくプロジェクト実行委員会」や「京北花のオープンガーデン」による植栽活動を支援するとともに，魅力あふれる花の名所づくりを進めます。

また，幹線道路である国道162号及び477号には美しい街路樹景観を創出し，京北地域全体が花降る里になるように整備します。

オ 地域の活力の創造（ひとの誘致）＜地域＞

京北地域の歴史的な催事を大切に継承するとともに，地域の賑わいにつながるよう京北夏まつりやふるさと祭り等のイベントの充実に努めます。

カ 水源地保全の取組＜地域，事業者，行政＞

都市部へと流れ下る桂川の水源地として，清く澄んだ清流を未来へ受け継ぐことができるよう，保全に取り組みます。

キ 移住・定住促進のための滞在型モデルの構築＜地域，事業者，行政＞（再掲）

ク 超高速インターネット環境（光ファイバ）の整備促進＜地域，事業者，行政＞（再掲）

ケ 暮らしを支える水道・下水道の確保＜行政＞（再掲）

コ 災害に強いまちづくり＜行政＞（再掲）

サ 消防力・地域防災力の充実強化＜地域，行政＞（再掲）

シ 未利用の公共施設の活用＜地域，事業者，行政＞（再掲）

京北地域で暮らしてみよう！！

10年後の
京北の姿



田舎暮らしを考えているのですが、京北ではどのようなサポートが受けられますか？

「ふるさと回帰フェア」等のイベントにおいて京北地域の魅力を積極的に発信しています。また、移住・定住に向けた相談窓口を設置し、長期滞在や住まい・しごと探し、移住後の様々な相談に応じています。田舎暮らしのための必要経費の助成制度もあります。

物件見つかるかしら？



「住まい」はどうしたらよいのですか？

相談窓口では、長期滞在型のレンタルコテージや空き家の情報をお知らせします。また、市が直接、所有者から空き家を借り上げ、必要な改修を行ってからお貸ししている住宅もあります。



「しごと」はあるのですか？

相談窓口では、しごと探しの相談にも応じます。シェアオフィス・工房等を活用した創作活動や農の学校制度（仮称）を活用した農業の実習によって、定住に向けたしごと探しを支援します。

事業所の誘致も行います



「子育て環境」はどうか？



子育て支援都市として、「京北で子育てしたい」「京北で育ってよかった」と思っただけのように、乳幼児期から切れ目のない子育て支援施策や小中一貫教育を進めています。



一度行って
みようよ！

その他に京北地域のウリは何がありますか？



京北地域は、京都の市街地から車で40分ぐらいの近距離。光ファイバの整備や災害につよいまちづくりでインフラも整い、市街地への通勤・通学も可能。こころの豊かさ・愉しさを求めて、ちょっと便利な田舎暮らしの体験に、ぜひお気軽にお越しください。



京北地域の方々とのワークショップ

今回のビジョンは、京北6地区や消防団員など、多くの方々との意見交換を通して練り上げました。新たな豊かさをともに創造する“共汗”のもと、本ビジョンに掲げる、未来の京北地域を実現します。



京北未来創造研究会

京都 京北未来かがやきビジョンの策定に際し、外部有識者の発想・アイデアを取り込むことで単に過疎化を食い止めることのみにとどまらない、未来創造型のビジョン策定に係る議論を深めることを目的とし、次の方々を中心に研究会を開催しました。

座長 **土井 勉** (京都大学大学院工学研究科 特定教授)



京北地域は京都市内において文化的にも産業の場としても重要な農山村地域です。都心からわずか40分程度でアクセス可能な京北地域の持つ潜在的な可能性は全国の政令指定都市の中でもずば抜けたものがあります。温かい住民の方々を中心に、地域のポテンシャルを活かして、雇用の場の拡大をはじめ、人々の交流の拡大を通して人口の定着など新しい地域コミュニティのかたちの構築ができればと思います。

副座長 **佐々木 雅幸** (同志社大学経済学部 特別客員教授)



近年、人口減少に悩む地域では、アーティストなどの創造人材を招き入れて、既存の文化や地域資源を見つめなおし、再発見することを通じて「再生」に向けたムーブメントが始まっています。このような「創造農村」に向けた取り組みの成功のカギは、異質な文化を持った人々を迎え入れる地域の寛容性や雅量でしょう。長期的視野に立った京北の戦略が求められています。

久保 敏隆 (京北自治振興会長)



京北地域の素晴らしさを多くの人に知ってもらいたい。そして多様な世代がいきいきと元気に暮らせる地域にしていきたいと思えます。若い子育て世代をはじめとして、外部から移住される方に対しても、地域の理念をしっかりと共有し、ともに未来の京北を創造していければよいと考えています。

メッセージ

京北地域活性化企画本部
参与
産業戦略監

白須 正

京北地域は、大都市・京都市にあつて、豊かな自然に恵まれ、古来より、農林業を基盤とする営みの中で、京都のまちづくり・くらしを支えながら発展してまいりました。

しかしながら、近年、全国の過疎地域の例にもれず、人口減少、少子高齢化が進み、今まさに、京北地域の持続的な発展に向けた新たな取組が求められています。

合併から10年、京北地域は、歴史・文化・産業が交わり発展してきた大都市・京都市の都市部との繋がりをこれまで以上に強めてきました。一方で、豊かな自然・文化を大切に受け継ぎ、守り、育てています。

住民の皆様の「思い」と「行動」を基本に、京北地域の魅力を最大限に活かして都市部との相乗効果を発揮するという、新たな視点に立ち、事業者やNPO法人等、未来の住民である移住される方々と地域づくりの理念を共有した取組を進め、この京北地域から、全国をリードする活性化のモデルをつくりあげていきましょう。

京北地域活性化企画本部
本部長

右京区副区長
京北出張所長

片山 博昭

京北の人々は幼少のころより山と向き合い、川と向き合い、自然に遊び、自然に学ばれます。日々の暮らしの中に自然の美しさを感じ、時に暴れる自然の怖さを体験され、また、木材（林業）や農産物（農業）という自然の恵みに糧を得られています。このような「自然資本主義」ともいべき京北の人々の暮らし…その心に歴史的に築かれた「価値観」は崇高であり、京北の未来のまちづくりにおいて、この「価値観」を基本に、今日的なエネルギー問題も含め、多様な自然の恵みを活かすことが京北らしさを追求する姿であると思います。

山々や清流、田園風景…そして里の人々、すべての命が京北では輝いています。自然性・歴史性が豊かな悠久の里・京北は今後も光を放ち続けて行かねばなりません。

京北の宝物は「自然」「子育て環境」「人々の優しさや温もり」であると確信しています。その宝物を磨き、発展させることが肝要です。京北の全てのチカラを結集して、未来永劫、京北の子ども、若者、お年寄りの皆さんが、故郷の誇りを感じ、いきいきと暮らせる、持続可能な地域づくりを進めていきましょう。

京北地域活性化企画本部

【参与】

白須 正 産業戦略監

【本部長】

片山 博昭 右京区副区長（地域力推進室京北地域活性化担当部長、京北出張所長）

【副本部長】

山中 博昭 総合企画局市長公室政策企画・調整担当部長

林 建志 文化市民局地域自治推進室長

猪田 和宏 文化市民局地域自治推進室地域コミュニティ活性化・北部山間振興部長

【本部員】

古井 幸生 環境政策局地球温暖化対策室エネルギー政策部長

川崎 隆司 行財政局防災危機管理室長

吉川 雅則 行財政局財政部長

中村 好宏 総合企画局情報化推進室長

松田 晃郎 文化市民局市民スポーツ振興室長

馬屋原 宏 産業観光局産業戦略部長

石田 洋也 産業観光局産業戦略部企業立地推進担当部長

高畑 重勝 産業観光局観光MICE推進室長

木戸 俊康 産業観光局農林振興室長

上野 壽世 保健福祉局子育て支援部長

松田 一成 保健福祉局保健衛生推進室長

下村 哲也 都市計画局まち再生・創造推進室長

別府 正広 都市計画局歩くまち京都推進室長

多田 吉宏 都市計画局住宅室長

市橋 英人 建設局建設企画部技術総括担当部長

山内 博真 消防局総務部長

安田 淳司 交通局企画総務部長

鈴木 隆志 上下水道局総務部長

稲田 新吾 教育委員会事務局総務部長

三谷 秀 上京区役所地域力推進室まちづくり推進課長

大東 一仁 西京区役所洛西支所地域力推進室まちづくり推進課長

この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収等へ！



発行 京都市文化市民局
発行月 平成27年8月
京都市印刷物 第273078号